



若葉グリーンメイト会報

No.63 1999年12月11日

事務局・鶴ヶ島市富士見2-32-22

TEL.0492-86-6266

# EKIDEN 第33回黒山・鎌北湖駅伝

駅伝の季節がやってきた。高校駅伝から実業団駅伝まで、あとはメインレースを残すだけ(なんていうと関東以外の大学から怒られそうだが)になった。しかし、その中で奥武蔵駅伝が中止されるという悲しいニュース。奥武蔵駅伝がなくなるといふことで、黒山・鎌北湖駅伝にWGMは賭けた。(2,3頁に記録)

天気は晴れ、無風。地球の温暖化は越生の里にも及んでいて、悠々とランニングウエアで次の走者を待てるという、これまでは考えられなかったような気候だ。

さて、あわよくば入賞も狙おうというWGMの1区は、中距離出身の佐藤選手。最近山もよく走っているが、山に強いという話はあまり聞かない。しかし、ここは短い2.7km区間、佐藤選手の若さに期待する。1区で飛び出したのは本田四親。一般では2位に38秒差をつける。城西大学の鈴木尚人監督もなんとか3位で面目を保つ。佐藤選手は11位。Aとしては、だいたい平均的な順位だ。小塚選手のもつチーム記録9分21秒は今年も破れなかった。Bは川崎選手が実力通り、Cの関谷選手が中距離に強いところを見せて、川崎選手に17秒差と食い下がった。

2区は坂下り。Aは下りの切り札小塚選手を起用。小塚選手はタスキを受け取ると、小柄ながらだがまさに宙を飛ぶというか、坂を転げ落ちるといふか、常識では考えられないような足の開きと回転で、みるみるランナーを追い抜く。中継地点ではなんと6人抜きで5位に浮上。タイムも八木原選手のチーム記録10分39秒にあと3秒と迫るチーム歴代2位の好記録でタスキをつないだ。いったい何を食べてるんだ。Cチームは山田選手が頑張っでBチームを逆転。チームないの順位は混沌としてきた。

3区は、ギャラリーの多いゴールデンロード。坂戸走友会は区間で2位に2分38秒差をつけるとんでもないタイムで区間1位、総合2位に。Aは大崎選手を起用、区間7位でつなく。BCの争いは、清水選手が健闘してそのまま。しかし、Dの岩堀選手がBに1分16秒差と見えるところまで差をつめる。

4区はだらだらの登り区間。パワーがものをいう。Aは越橋選手が区間11位で中継点に飛び込む。昨年も4区だったが、昨年よりタイムを12秒縮めた。BCDは、Bの四條選手がCとの差をつめたが、それ以上にDの大崎選手も速く、BCDが1分55秒の差の中にほぼ同じ間隔

で並ぶ展開、勝負はまだわからない。

5区はアップダウンの名物区間でもあり、またもっとも長いエース区間でもある。ここをまかせられるのはこの人森脇選手。順位では前回、前々回とほぼ同じだったがタイムはそれを上回るどころまではいかなかった。故障が治ってまだ完全回復とまではいかなかったようである。BCDではBDがついに先行するCを登り半ばまでに捕らえた。折り返し地点ではDの谷中選手がB藤田選手に迫るが、下りで藤田選手が逃げに逃げる。谷中選手は入りが早過ぎたようで後半よればじめ、結局Bに対しては1秒つめただけに終わった。城西大学は2チームを出したが、この区間を全国大学女子駅伝で2区を走った友金選手が10位で走りさすがに実力を見せてくれた。

いよいよ6区アンカーだ。Aは入賞ラインの3位との差が3分近く開き入賞の望みがなくなった。しかし、アンカー男梶本栄一選手がこれ以上ゆがめようがないほど顔をゆがめて力走する。Bチームは和田選手が逃げ切り態勢だ。問題はDの池田選手が逃げ切れるか、Cの八木原選手が逆転するか。しかし、さすがにもとAチーム。2分30秒のビハインドをひっくり返す力走でDを逆転、結局チーム内順位は、ABCDの順で丸く納まった。

一般入賞は佑和建興、毛呂山RC、本田四親の順。この3強時代はまだしばらく続きそうだ。

さて、レース終了後の楽しみは、お楽しみ抽選会。2チームに1チームはなにかが当たるとのことだが、WGMはなんと3つしかも例年より豪華商品をゲット。運の強さは上向きだ。残念だったのが、坂戸走友会。最後の福の豪華景品が当たったのに、会場にいなくて失格とあいなった。代理でもらっておいてもよかったけど、他のチームに悪いからね。

## お詫び

色々事情がありまして、発行が遅くなったことをお詫びいたします。今回も時間切れで、もっと原稿があるのですが、編集に間に合いませんでした。近々(年末か年始くらいには)次号を発行しますのでお待ちください。池田さんのヨロシマラソン、森脇さんの報告、今泉さんのつくばマラソン報告、その他合宿、山岳耐久レースなど盛りだくさんです。なお、これらの内容はほとんどがすでにホームページ上で報告されておりますので、インターネット上ではご覧になれます。

アドレス <http://www.asahi-net.or.jp/tc7h-yнк>

# 第19回坂戸毎日チャリティマラソン 安部選手、宗猛監督と走った

西暦が1999年なら坂戸毎日は第19回、2000年になれば20回（その先まで突っ込み禁止）となる坂戸毎日。今年暑いくらいの気候の中で開催された。

10km、5kmでは、宗猛旭化成陸上部副監督がゲスト出場。替え玉出場の余波で高校駅伝出場ができなかった鳩山高校の選手諸君と汗を流した。記録は33分台か。河口湖マラソンをはじめあちこちの大会で活躍する女子栄養大学の田島紀子さんとも大いに競い合った様子だ。しかし、この日は東京国際女子マラソン。旭化成の注目選手、千葉真子選手が出演しており、本当にゲストとしてくるのか半信半疑だった。千葉選手の予想を越えた飛びだしと宗猛副監督（副監督が女性担当と聞いたが）の不在がなにか関係していたのでは.....。

WGMでは、ハーフで森脇さんが1時間17分24秒で16位入賞。梶本さんは20位と惜しくも入賞を逃したが、1時間18分17秒の記録は立派。来年は入賞だ。八木原さんが38分台の記録で快走。梶本栄一選手は生活環境が激変した中で昨年の記録を上まわったのは立派。吉良さんは女子の部で12位、元会員の妻沼尚美さんが19位でそれぞれ入賞。安部友恵選手は1時間14分台だったとか。大阪あるいは名古屋国際女子マラソンを勝ちぬきシドニーにぜひ出場してもらいたい。

レース後は例の通り反省会。宮部さん提供の「雪中梅」、おいしゅうございました。恒例で、越生鎌北湖駅伝のメンバー決め。この席で、来年の奥武蔵駅伝の中止を知らされる。歴史も伝統もある大会なので、よもや中止になるとは思わなかった。警察の判断だそうだけど、どうにも納得がいきません。土屋知事も、彩の国マラソンでスターターを努めるくらいなのだから駅伝存続に力を果たしてほしいもんです。

【第19回坂戸毎日チャリティマラソン】1999年11月21日 午前9時の気温11.1度（10kmスタート9時30分、ハーフスタート10時30分には随分上がったと思う）、湿度69.5%、北風1.2m。

### 競技役員

小塚金	池田	大崎	肥田	草島	佐藤富	平田	成田	宮川
ハーフの部				小泉 1 : 49 : 41				
松村	1 : 17 : 14	10kmの部						
森脇	1 : 17 : 24	八木原 38 :						
梶本	1 : 18 : 17	今泉 39 : 46						
越橋	1 : 22 : 03	清水 41 : 02						
保坂	1 : 22 : 20	和田 41 : 17						
川崎	1 : 25 : 45	針谷 45 : 04						
谷中	1 : 26 : 41	岩堀						
四條	1 : 28 : 25	山田						
鳥海	1 : 29 : 16	吉良 女子12位						
山崎清	1 : 33 :	5kmの部						
戸田	1 : 33 : 48	小塚 17 : 37						
宮部	1 : 41 : 21	関谷 19 : 47						
坂口	1 : 47 : 14							
渡辺	1 : 48 : 48							

# 合同練習会報告

6月20日、鳩山町農村センター周辺 1周 5 kmの周回コースを用いた、恒例の東上沿線走友会の合同練習会対抗駅伝大会が行われた。大会の面倒を見ていただいたのは、坂戸走友会と地元の鳩山NTRC（ニュータウンランナーズクラブ）です。ありがとうございました。

### [レース経過]

午前10時10分用意ドン。東上沿線6走友会23チームの第一走者が一斉にスタートしました。昨年は川越走友会が第一走者からトップを譲らず優勝したが今年はどうでしょうか。天気はときたま霧雨のような粒が降るだけの絶好のランニングコンディション。

1区～2区 第一走者が戻ってきました。注目のトップは誰だ。おお、ドハデの蛍光ピンクの上下、そうです、駅伝となると異様に燃えるWGMの大崎貴幸選手です。トップで2走の森脇選手にたすきが渡りました。やや遅れて川越走友会がBAと続きます。

川越走友会はBチームの第2走者まで10km36分以内の選手を揃えているとかで、「川越走友会がワンツーフイニッシュ」（横川選手）と豪語しております。

2区 / 3区 言葉通り、川越走友会は強い。Aが1位に浮上。約16分20秒。この日のベストタイムのようです。さらにBチームも2位に。WGMの森脇選手が帰ってこない。さては昨年の二の舞か！と心配しましたがちゃんと戻ってきました。

3区 / 4区 川越走友会Aはますます調子が出てきました。4走は横川選手。これを追ってゾーンに飛び込んできたのはWGMの梶本選手。一つ順位を上げました。しかも3位を大きく離す力走です。しかし、トップの姿は遠く去って見えない。

4区 / 5区 アンカーにも実力者を配した川越走友会Aが悠々のゴール。しかし、コースでは逃げるWGMと追い上げる川越走友会Bの熱戦が繰り広げられています。日立製作所基礎研究所正門前を通過する地点（3km）での差が約40秒、3.5kmから下りです。下りで川走Bがスパート、と思ったら鳩山NTRCのようです。いつの間に浮上したのでしょうか。差をぐんぐん縮める。WGMの今泉選手、まだ後ろの追い上げに気がついていない。敬愛病院前（4.5km）を通過して20秒差。今泉選手気がつきました。必死に逃げる。しかし最後に上り坂があります。ここで足が上がらない。差はぐんぐん縮まる。ゴールまであと200m。さあ、結果はいかに？

順位	チーム名	タイム	順位	チーム名	タイム
1	川越走友会	1 : 25 : 22	13	川越走友会	1 : 46 : 42
2	WGM A	1 : 30 : 05	14	坂戸走友会	1 : 47 : 39
3	鳩山NRC	1 : 30 : 08	15	東松山陸友会	1 : 47 : 55
4	川越走友会	1 : 31 : 47	16	坂戸走友会	1 : 49 : 02
5	坂戸走友会	1 : 34 : 17	17	毛呂山RC	1 : 50 : 11
6	WGM B	1 : 39 : 23	18	鳩山NRC	1 : 50 : 59
7	鳩山NRC	1 : 40 : 05	19	坂戸走友会	1 : 54 : 10
8	川越走友会	1 : 40 : 09	20	川越走友会	1 : 59 : 22
9	WGM C	1 : 41 : 21	21	毛呂山RC	2 : 04 : 00
10	坂戸走友会	1 : 42 : 55	22	毛呂山RC	2 : 05 : 11
11	鳩山NRC	1 : 43 : 19	23	川越走友会	2 : 18 : 11
12	WGM D	1 : 46 : 04			